

AMDA

3年間医療支援継続

東京で 被災地2病院に派遣

国際医療ボランティア
AMDA(本部・岡山市)は21日、東日本大震災の緊急医療支援活動報告会を東京都内で開いた。菅波茂代表は、被災地の岩手県大槌町、宮城県南三陸町の病院で今後3年間、医療支援を続ける方針を明らかにした。

AMDAは、大槌、南三陸町など岩手、宮城県の4市町で緊急医療支援を4月まで展開。計約150人の医師や看護師、調整員らが避難所や地域を巡回して医療活動などを行った。



AMDAによる東日本大震災の緊急医療支援活動についての報告会＝東京都内

たことなどを報告。各地からの応援の医師らが引き上げて医療が手薄になるため、現地の2病院に対し3年間医療スタッフの派遣を続けるという。

総社市の西川茂・国際・交流推進係長は、市がAMDAに協力して電気自動車や支援物資の搬送、職員の派遣などを行ったことを紹介し、「自治体にはないスピード感やNPOとの連携の重要性を学んだ。行政に生かしたい」と述べた。

AMDA本部の航空部門担当の大森章夫さんは、岡山空港から岩手県・花巻空港へのチャーター機などによる医師らの派遣活動を報告。被災自治体が飛行

菅波氏は、ガソリンに搬送してもらった電
不足の現地で、総社市 気自動車2台が役立つ

機やヘリコプターの受け入れに慣れておらず、手続きが遅れた問題点を指摘した。
同本部の難波妙さん

は、8月上旬に岡山、総社市のグラウンドで被災地の中学生を招いてサッカー交流を行う計画を明らかにした。

(岡山一郎)